

**熱心にお寺を巡るお遍路さんとの
出会い。静かに座禅を組み、瞑想し
たひと時。得難い体験を通して、子
ども達は慈悲の精神を学んだ。**

と き：平成19年11月10日・11日
ところ：今治中央公民館・高野山別院・南光坊
先 生：男子厨房に入る会OB会の皆さん
みかんトリオの皆さん
参加者：学生スタッフ 10名
子ども 29名

四国ならではの財産である「四国八十八箇所霊場」。「心の修行」として多くの方が巡礼しています。四国・今治に住む私たちは、日常的に白装束に金剛づえ姿のお遍路さんを見かけます。今回の授業は、地元の僧侶の皆さんが「四国遍路」の文化を地元の子ども達に知ってもらいたいと企画しました。地元の人がお遍路さんに対して施す「お接待」を経験し、思いやりの心や助け合う心を学んでもらうことが目的です。

お遍路さんへのお接待の内容は実行委員・学生スタッフと3人の僧侶の皆さんで考えました。色々な背景を抱えてお参りにきているお遍路さんに、地元の私たちができることはどんなことがあるのでしょうか。「お遍路さんが持っている納経帳。しおりがあったら便利。」「小さな手提げバックが喜ばれそう。」そんな意見が出され、これらを子ども達が手づくりするというプログラムが生まれました。

もう一つの目玉は、子ども達の手打ちうどんでお接待をすることです。「夢学校」に地域の先生・男子厨房に入る会OB会の皆さんから、「しまなみ手打ちうどんを作ろう」というプログラムが提案されていました。授業選考の際、実行委員・学生スタッフから「弘法大師がうどんを普及したという伝説があることを聞いた。その背景も考え、うどんづくりの授業とお接待の授業のコラボレーションが効果的だ」との意見があがり、連携して実施することが決まりました。

1日目は、手打ちうどんづくりに挑戦です。「小さい頃に食べた手打ちうどんの味が忘れられない。」と、自らでその味を工夫して編み出した村井さんをはじめ、4名の方が先生です。

大きな調理台、お鍋に包丁と、目に飛び込んでくるもの全てが目面しい子ども達。好奇心旺盛な表情で先生の話に聞き入ります。粉をふるい、塩をまぜ、自分でこねる。本格的なうどんづくりは重労働。口に入れるまでの長い工程を知るとは、出されたものを「食べる」という受動的な行為となってしまうがちな「食」への見直しの機会となりました。途中、茹で上がりのうどんをつまみ食い。そのおいしさに子ども達の目は輝きました。

2日目は、手打ちうどんを筆頭に、自分達手づくりの品々でお遍路さんをお接待です。まずは「四国八十八箇所霊場」を巡るお遍路さんについて勉強しました。昔は死者がでるほど、大変な修行であったこと、年間、数万人の人が旅をしていること、などが伝えられました。

その後、お接待に挑戦。邪魔になっていないかと心配する場面もありましたが、お遍路さんは皆、とても喜んでくれました。また、お遍路さんになりきり、般若心経を唱えた子ども達。その顔は真剣なものでした。場所を変えて挑戦した「護摩祈祷」、「瞑想」なども、子ども達にとって、貴重な体験となりました。普段、あまり足を運ぶことがないお寺という空間で、しばし心と向き合い、何かを感じてくれたのではないのでしょうか。

◆プログラム実施「お遍路さん ～心で学ぶ癒しの道のプレゼント～」

(プログラムの流れ)

【10日 9:30】



料理は手順や準備が大切。そんなアドバイスから始まったうどんづくり。5つのグループに分かれ、まずは、トッピングの準備。

【10日 10:30】



会場の真ん中の調理台を先生用とし、各工程の前に、先生の調理台にみんなが集まる。作業や作業の意味をみんなで共有。



粉をふるい、食塩水を入れてもみほぐす。

【10日 11:30】



足で踏んで、しっかりのばす。グループで協力。



大きな包丁で慎重に。先生が心配そうに寄り添う。

【10日 12:30】



自分達が作ったうどんを堪能する子ども達。こだわりのおだしは先生のお手製。とても奥が深いうどんづくりはあっという間に終了。明日は自分達の打ったうどんでお接待と意気込み十分な様子。

◆プログラム実施「お遍路さん ～心で学ぶ癒しの道のプレゼント～」

【11日 8:35】



高野山別院本堂に集まり、「四国八十八箇所霊場」
「お遍路さん」についての説明を聞く。「歩き遍路は全長何kmか」－「1200km」など、クイズ形式のやりとりで子ども達の緊張が解ける。

今回、先生を務めてくださるお坊さんについても紹介。「女のお坊さんはグレーの衣で修行をするよ」「昔、高野山では修行中、山火事が起こると、精進ができていないと、えらいお坊さんは追放されていたよ」、そんな楽しいエピソードに子ども達は聞き入った。

様々な思いを持って、何十日もかけて歩いて巡る人も多い四国遍路。疲れや身体の痛みを感じながら巡る人に、地元の人がプレゼントをする習慣がお接待。「優しい心を持つこと。慈悲についてみんなに考えてもらいたい」と授業の目的が確認された。また、慈悲の精神を学ぶことがお坊さんの修行の目的でもあることが伝えられた。

【11日 9:00】



プレゼントするしおり、エコバックづくり。



【11日 10:40】



南光坊へ移動し、いよいよお接待。「お接待うどんです。昨日、私たちで打ちました！」声をかけながら、うどんをふるまう。「おいしい」という声に子ども達は大満足。しおりやマイバックもプレゼント。中には涙を流して喜んでくれるお遍路さんも。子ども達は心を揺さぶられたようだ。一方、なかなか声をかけられない子もいたり、緊張の糸が解けて騒いでしまったり、課題も見えた。

【11日 10:40】



お遍路さんになりきって、般若心経を唱える。騒いでいた子ども達もこの時ばかりは真剣な表情。どんな思いで手を合わせているのだろうか。

◆プログラム実施「お遍路さん ～心で学ぶ癒しの道のプレゼント～」

【11日 13:00】



高野山別院護摩堂に移り、「護摩祈祷」。お札に願いを書き、燃え上がる炎に託す。

【11日 13:40】



「あ～」と、音の根源を発する修行。一人一人別の人格を持った「人」だが、根源は同じ「命」。そんなことを頭に描きながら瞑想。たった15分だが、集中力が途切れるのは少し寂しい。

【11日 14:45】



最後は広いお堂で雑巾レース。子ども達は白熱。「今日出会ったお遍路さんはとても熱心に巡っていたね。みんなも何でもいから熱心にできることを見つけて欲しい。雑巾レースで一生懸命になっていたみんなを見て、これからもがんばっていける子たちだと安心した。」と先生のコメント。

【11日 15:10】



最後はグループごとに今日の振り返り。貴重な体験をさせていただいたことに感謝する子ども達。

（子ども達の声）

- ・お坊さんと触れ合うことができて楽しかった。15分間のめいそうなど、色々なことが学べた。
- ・1日目に作ったうどんを、いろんな人にあげることができて気持ちよかったです。しゅぎょうはしんどくて、お坊さんの厳しさがわかった。
- ・手づくりのバックを渡したら、「ありがとう」「大切にね」と、みんなすごく喜んでくれた。うれしかった。

（先生の声）

- ・大人数だったがまとまりよく過ごすことができたと感じる。人のために何かしてあげて、笑顔をかえしてもらおうという今回の体験を胸に、これからも前向きにがんばって欲しい。
- ・子ども達だからできること、今だからできることがある。機会があれば、これを機会にお寺に足を運んで欲しい。
- ・今日、一日の体験で、思いやりや優しい心について学ぶことが少しでもできていればうれしい。「疲れたな」「のどが渇いたな」と思ったとき、他の人も同じように感じているかもしれないと、他人の気持ちを思いやってあげられる人になって欲しい。

